

展覧会情報

静嘉堂文庫の古典籍 第7回 古地図の楽しみ

会場 静嘉堂文庫美術館
電話03-3700-0007

期間 2月14日(土)～3月22日(日)

古地図の世界～日本図～

会場 岐阜県図書館世界分布図センター
電話058-275-5111

期間 1月6日(火)～3月26日(木)

古地図に描かれた世界 アジアと日本

会場 神戸市立博物館
電話078-391-0035

期間 2月14日(土)～3月29日(日)

絵地図でタイムトラベル 一館蔵地図総覧一

会場 佐賀県立名護屋城博物館
電話0955-82-4905

期間 2月13日(金)～4月5日(日)

城絵図と町絵図

会場 千秋文庫
電話03-3261-0075

期間 1月5日(月)～4月16日(木)

mini地図NEWS

■ 国土地理院、空中写真のデータベース

国土地理院は、戦後から現在までに撮影された空中写真を見られる「国土変遷アーカイブ空中写真閲覧システム」を2009年1月、リニューアル公開した。年代別の空中写真を集めたデータベースで、国土地理院が保有する30万枚以上の空中写真を、撮影年代や写真の種類、縮尺などで検索できる。地図の縮尺は4段階で、上部のスライダーで切り替えられる。

調べたい地域を表示させた上で「検索」ボタンを押すと、地図上に空中写真があることを示すアイコンが表示される。アイコンは撮影年代により、色分けされており、また、カラー写真は「C」、モノクロは「M」と表記される。

アイコンの上にマウスポインタを重ねると、そのアイコンの空中写真の撮影範囲が黄色で表示される。そのままアイコンをクリックすると、空中写真が表示される。解像度は100dpiと200dpiの2種類から選択可能。

現在公開している写真は、1946年1月～1957年12月に撮影された約13万4000枚、1961年1月～1974年12月・15万3000枚、1975年1月～1978年12月・2万3000枚、1992年1月～2001年12月・3万6000枚、2003年1月～2006年12月・3万1000枚。国土地理院は、今後もデジタル化した空中写真を順次公開予定。国土変遷アーカイブ空中写真閲覧システム
<http://archive.gsi.go.jp/airphoto/>
INTERNET Watch「趣味のインターネット地図ウォッチ」(碓氷 貫氏)より。(2009年1月15日)

巡検開催のご案内

■ 羽田界隈を歩く (仮称)

平成21年度第1回巡検を4月に開催いたします。漁村から空港の町へ大きく変貌した羽田・穴守稲荷・大鳥居周辺(糞谷)を歩きます。現在、ルート等を検討中です。

ご案内：伊藤 等先生 (日本大学)

開催日：平成21年4月11日 (土)

荒天の場合は4月18日 (土) に順延

定員他：約20名。参加締切は4月3日 (金)

申込み：電話 03-3262-1486 Fax. 03-3234-0872

mail chizujoho@nifty.com のいずれか

集合：京急穴守稲荷駅 改札外 10:00 (予定)

ルート：詳細は現在検討中です(以下は見学予定先)。

①穴守稲荷神社

②羽田の渡し跡

③レンガの堤防(多摩川沿岸、羽田)など

参加費：1,000円(資料費等)。なお現地までの交通費、昼食代は各自ご負担下さい。

ご注意：軽快で歩きやすい服装でおいで下さい。天候や諸事情によりルート等を変更する場合があります。参加者には集合場所と簡単なご案内をお送りします。

地図絡み

第36回 消えた門前町ー上総山武郡芝山仁王尊ー

帝京大学理事 井口悦男

もう半世紀前になるが、両国駅から発車する総武線のSL列車で成東まで乗り、そこから国鉄バス二川線ふたがわくりもとで40分ほど、北側に広がる下総台地上り、芝山仁王尊の石段前を通りすぎ、すぐ先の二川(小池)で折り返し、そして仁王尊の裏手北側の道に入り、多古方面へ丘を下り谷間途中の山中(大作)集落まで、発掘の手伝いに出掛けたことがあった。日に4~5本しかないローカル線で、成東駅前の小さな待合室はバスがくるまでわびしい所であった。大作バス停際の地域素封家医院のお世話で、発掘勢の宿舎は、仁王尊北側参道の宿屋「藤屋」であったが、発掘参加の表敬訪問にまず医院の門をくぐった。

発掘現場は、医院や宿舎からやや離れた台地に食い込んだ低平な谷間の、九十九里浜の太平洋に注ぐ栗山川の支流高谷川の谷底平地川畔の殿部田遺跡(縄文)で、現、水田下に当時加工された木杭が保存されていた。

それはともかくとして、藤屋の前の道が広く一直線に、仁王尊境内から北東に、二川から多古へ向かう街道、仁王尊の北側を通る形の現、バス道に平行し、それほど長くはないが、その両側に大きな家々が木々に埋もれるかのように並んでいた。藤屋もその一軒であった。

われわれと同世代素封家医院の息子さんの話によると、立派な仁王門と多宝塔を見上げる位置に鎮座する、仁王尊は、鉄道時代以前は、成田山と並び称せられる、この地方の信仰を代表する寺のひとつであった。しかも、佐倉から八日市場そして銚子を結ぶ直線上にあたり、総武線は当時芝山経由となる筈であった。しかし、こ

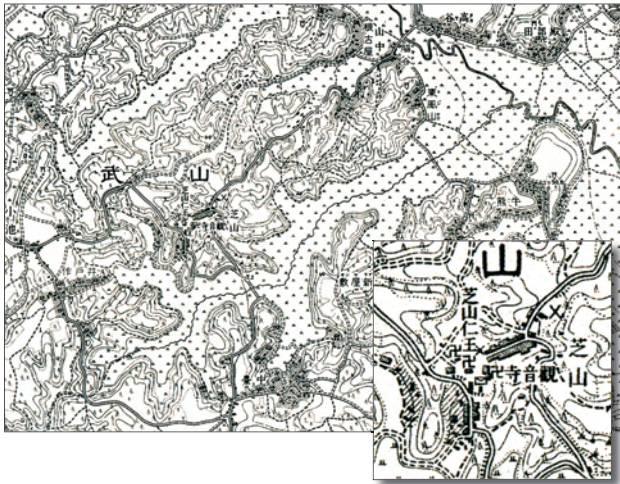


図2: 2万分1「芝山」明治36年測 陸測
明治末期には「仁王尊」の北東及び南の両側に小さな街(門前町)のあったことが分かる。大正10年測図(2.5万)にも一応認められる。

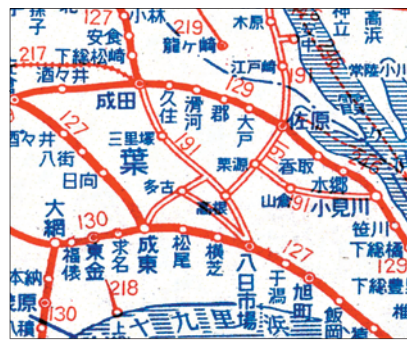


図1: 国鉄バス二川線・栗源線
図(交社時刻表昭和30年6月号)では、バス路線は成東と多古とを直結して描くが、松尾駅を經由し、芝山、多古、佐原を結ぶ路線であった。

れを嫌ったため、鉄道は、芝山を避けるように南や北を三角形に選定された。その結果、成田山の盛況に対し、仁王尊のほうはだんだんに忘れられていった。それでも、明治期の旅行案内(時刻表を兼ねる)には、成田山と一緒に必ず紹介され、成田駅から4里、あるいは松尾駅から2里余とあげられ、宿屋は藤屋と記される。しかし、昭和の地誌類では成田山は詳しいが、もはや仁王尊には全く触れてくれない。

成田空港開設後、観光バスで芝山仁王尊に寄る折があった。なつかしさのあまり、南側正面石段下の駐車場へ戻る前に、一人で思い出ある北側参道、藤屋のあった広い道を訪れた。一層草深くなって藤屋は見当たらなかったが、旧門前町をしめす道だけは残っていた。境内入口の一軒のいまは農家らしい家の軒先きに、80を越した老人の姿があった。発掘当時、われわれに筍御飯を3月早々に掘り出して御馳走してくれた、40才代元気な藤屋の御主人の、その後の姿に見えてならなかった。

成田から近頃、芝山に電車が伸びてきた。永年の願いは達せられたが、仁王尊の真上を大きな機影がひっきりなしに轟音とともに、覆いかぶさるように去来する。石段下駐車場の周辺に、新たな門前町がよみがえるだろうか。
(09.02.03 節分の日に)

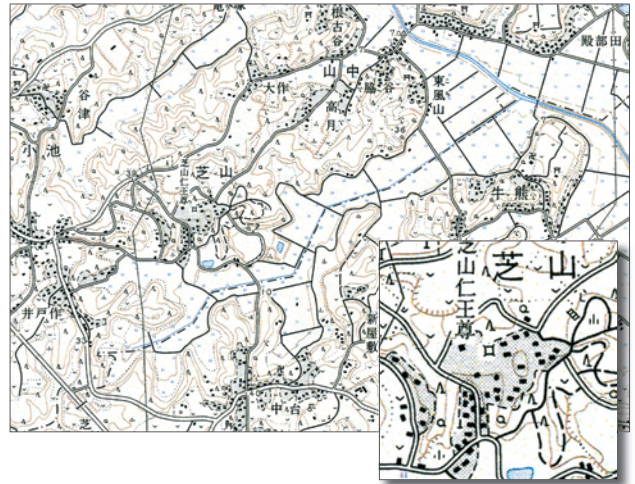


図3: 2.5万分1「多古」平成3年修正 地理院
「仁王尊」南側に辛ろうじて人家集中地の名残りを感ずるが、北東側(塔からの点線道路周辺)は消滅している。(図2・3とも約4万分1に縮小、拡大図は約1.7万分1)